



ROTARY CLUB OF OSAKA JONAN

WEEKLY BULLETIN

創 立 1969. 5. 30 会 長 南 賀 勝 之
幹 事 濱 田 由 弘 会 報 委 員 長 岩 永 建 保

Rotary  Be a gift to the world
世界へのプレゼントになろう

2015-2016年度国際ロータリー会長 K.R. ラビンドラン

RI 2660地区
大阪城南ロータリークラブ

NO. 2250

2015-10-23

事務所 〒542-0012 大阪市中央区
谷町9丁目1番22号NK谷町ビル407号
TEL(06)6796-9898 FAX(06)6796-9899
http://www.osaka-johnan-rc.org/
E-mail:johnan25@crocus.ocn.ne.jp
例会場 シェラトンホテル大阪 上本町6-1-55
TEL (06)6773-1111
例会日 金曜日 12:30

本日の例会) 10月23日(第4例会)

- 卓話 「砂糖についてIV」
今回は砂糖に関する正しい知識の啓蒙と
言うよりは、それにまつわる面白い話を
させていただきます。
村上武史会員

次週のお知らせ) 10月30日(第5例会)

- 卓話 「今シーズンを振り返って」
川藤幸三氏
(中尾吉計会員担当)
- 食膳 〈フランス 円卓料理〉

次々週のお知らせ) 11月6日(第1例会)

- 卓話 「ロータリーとポリオ」
地区ロータリー財団委員会
ポリオプラス小委員会 委員長 松下和彦氏
(井上裕貴R財団・米山委員長担当)

先週の記事) 10月16日(第3例会)

- 出席報告
出席会員 45名 (内免除会員 14名)
会員総数 49名 (同上 16名)
ゲスト 2名
ビジター 0名
計 47名
ホームクラブ出席率 95.74%
10月2日(第1例会)補正出席率 97.67%(MU3名)

- ゲスト&ビジター (敬称略)
森 和俊 (卓話者)
Nur Izzatur Binti Ismail (米山奨学生)
ヌル イザトゥール ビンティ イスマイル

◆会長の時間◆

「ロータリーの目的(綱領)」
どのような組織もその目的あるいは日標が必要

です。1906年に採択されたシカゴRCの最初の定款
に、3つの目的が記されました。

その後、ロータリーの綱領はその時代とともに変
更が繰り返されて、その時の情勢にあわせた調整が
行われ、1951年にその最も重大で最後の改訂が下
記の通り行われました。

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として
奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体
的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会
とすること。
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事は
すべて価値あるものと認識し、社会に奉仕す
る機会としてロータリアン各自の職業を高
潔なものにすること。
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また
事業および社会生活において、日々奉仕の理
念を実践すること。
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネッ
トワークを通じて、国際理解、親善、平和を推
進すること。

◆幹事報告◆

会員の皆様にポストしていますが、当クラブに入
会を推薦されておりました山本智重さんが、選考・
分類委員会及び理事会の入会承認を得ました。この
件に関してご異議がありますれば、2015年10月
22日までに理事会宛の理由を付記して、書面にて
幹事までお申し出ください。

◆委員会報告◆

「ロータリー財団・米山奨学委員会報告」
ロータリー財団・米山奨学委員長 井上裕貴
今週はロータリー財団に南賀会長・平瀬会員・
村上(泰)会員、米山奨学に南賀会長、村上(泰)会員、
井上会員より寄付いただきました。

10月は経済と地域社会の発展月間/米山月間です!!

〈4つのテスト〉言行はこれに照らしてから

真実かどうか

みんなに公平か

好意と友情を深めるか

みんなのためになるかどうか

卓話

10月16日 <第3例会>

「小胞体ストレス応答

— 私達持っている驚異の復元力」



京都大学 大学院理学研究科
生物科学専攻 生物物理学教室
ゲノム情報分野 教授
森 和俊氏

生き物の基本単位は細胞です。私達人間は60兆個もの細胞でできています。細胞の中はどうなっているのでしょうか。私達の体の中には、いろんな臓器が入っていて、肺が呼吸をし、心臓が血液を循環させています。同じように、細胞の中にも小さな臓器がたくさん入っていて、それぞれが役割分担しています。私が研究している小胞体は、細胞の中に存在する小さな臓器の一つで、タンパク質の製造工場という役割を果たしています。

タンパク質とは何でしょう。一般には、炭水化物、脂肪と合わせて3大栄養素の一つですが、細胞の中では水の次に多量に存在する重要物質です。タンパク質が働いているから我々は生きてるといっても過言ではありません。

糖尿病を例に解説しましょう。尿中の糖濃度が高いことが原因で病気になるのではなく、血液中の糖濃度(血糖値)が高い状態が続くと、糖が尿に漏れだすと同時に血管にダメージを与えて、いろいろな症状が出ます。

しかし、食事後には誰でも血糖値が上がります。でもしばらくすると血糖値が低くなるのは、膵臓が作っているインスリンというタンパク質が血液中に放出されるからです。このインスリン(鍵)が肝臓や筋肉の細胞に存在するインスリン受容体(鍵穴)に入って鍵穴を回すと、車のエンジンがかかったように、肝臓や筋肉の細胞が血液中から糖を取り込むために、血糖値が下がるのです。

鍵と鍵穴は1対1で対応するように形が決まっています。タンパク質が働く時にはその形が重要なのです。タンパク質の原料はアミノ酸が数珠つながりで並んだ紐(ひも)です。ですから、この紐を針金細

工で、鍵の形に作り上げているのです。この針金細工を細胞内でしているのが、小胞体という言わば工場です。この工場はかなり優秀で、よく働くのですが、それでも時にうまく機能しなくなり、不良品がいつも以上にできてしまうことがあります。この状態を小胞体ストレスと呼んでいます。このとき、この悪くなった状況を元に戻そうとする復元力が細胞に備わっていることを私の米国テキサス大学でのボス2人が発見しました。私は彼らの指導の下、この復元力(小胞体ストレス応答)の仕組み解明に取り組み、小胞体の中の状況が悪化していることを感知するセンサー分子を世界で初めて発見しました。さらに、帰国後もこの驚異の復元力が働く仕組みを解明したことが評価され、昨年ラスカー賞を受賞しました。今後も研究に邁進します。



▲ポール・ハリスフェロー授与 岡部(倫)会員

にこにこ箱

10月16日(第3例会)

- 長らく休んでいましたが、元気にやっています。今日は森和俊先生のお話を聞いていただきます。よろしくお願いします。

中本会員

- 森様、本日卓話、宜しく願い致します。

南賀会員

- 三木さん、いつも可愛い写真ありがとうございます。

小林会員

- 他、お詫び 2件

(編集担当 武田・浅井)

会員増強にご協力を!!